

## 読後感に注目した個人の嗜好に合った本の推奨システムの提案

稲葉 こずえ† 植竹 朋文†

専修大学 経営学部†

## 【1. 研究動機】

近年、読書離れが社会問題化しており、それに伴い若者の思考力の低下が指摘されている<sup>[3]</sup>。教育改革実践家の藤原一博氏は、読書によって様々な力を磨くことができると述べ、本の必要性を主張している<sup>[2]</sup>。そこで、読書離れを解消すべきだと考えた。

## 【2. 研究対象・目的】

読書意欲はあるが、普段本を読まない人を研究対象とし、読書離れの原因を考慮し、対象に読書を促すシステムを提案することを目的とする。

## 【3. 現状分析】

ここではまず、読書に関する意識と読書離れの原因、本の購入動機を明らかにする。(株)クロス・マーケティングの調査(15~69歳の男女1200人)<sup>[8]</sup>によると、主な原因は以下の通りである。

## 1. (株)クロス・マーケティングの調査

- 読書に対しては好意的な人が多い(66.3%)
- 読みたいと思う本がない(22.4%)
- 本を購入するきっかけとして口コミが大きく作用している(55.6%)

「読みたいと思う本がない」というのは、言い換えると、「自分の嗜好に合った本を見つけられていない」という風に捉えることができる。また、購入動機として挙げられていた理由の多くは、そもそも読書習慣がある人や書店に行く人に限られていた。その点、口コミは読書週間の有無に関係なく適応される。

## 2. 口コミについての分析

上記のことを踏まえ、次に、口コミについての分析を行った。ここでは代表的な口コミであるネットレビュー<sup>[4]</sup>に注目し、高評価なレビュー(10作品各10件のレビュー)の分析を行った。分析の結果、有効なレビューには“読後感”が重要であり、読後感は動詞/形容詞/形容動詞/抽象名詞/副詞で表現されていることが多いことが明らかになった。

Proposal of book recommendation system focusing of on book reports

†Kozue Inaba, Uetake Tomohumi, Senshu University

※本研究で読後感とは感情的感想(ex.面白い/悲しい)、体感的感想(ex.リアル/鳥肌)を意味する。

## 3. 既存システムの分析

上記のことを踏まえ、読書習慣がない人が、嗜好にあった本を容易に見つけるシステムはあるのか、以下の主要なシステムを分析した。

その際「検索方法の容易さ」「個人の嗜好を反映できるか」「レビューの充実度(星評価、読後感の有無)」を評価項目とした。

- 読書ログ:本を探す、他ユーザと繋がるコミュニティ  
(<http://www.dokusho-log.com/>)
- ブクログ:本の感想評価チェック、管理・記録、本棚作成  
(<https://booklog.jp/>)
- 読書メーター:本を登録・管理し、感想も残せる  
(<https://bookmeter.com/>)
- Amazon:書籍を含む世界最大級の通販サイト  
(<https://www.amazon.co.jp/>)

〔表1 既存システムの分析〕

	検索方法	個人の嗜好	レビュー
読書ログ	△	△	△
ブクログ	△	×	○
読書メーター	△	×	△
Amazon	×	×	△

分析の結果(表1)、すべての項目を満たすものはなく、自分の嗜好を十分に把握できていない人にとって、個人の嗜好を反映し、容易に本を検索できるシステムはないことが明らかになった。

## 4. 現状分析のまとめ

- 個人の嗜好に合った本を見つけることが重要
- 本を「読みたい」と判断する際にはレビューに含まれる読後感が重要
- 自分の嗜好を十分に把握できていない人にとって、容易に本を検索するシステムは存在しない

## 【4. システム提案】

レビューを用いて、個人の嗜好と読後感を、散布図を作成することで可視化し、その人にあった本を推奨システムを提案する。

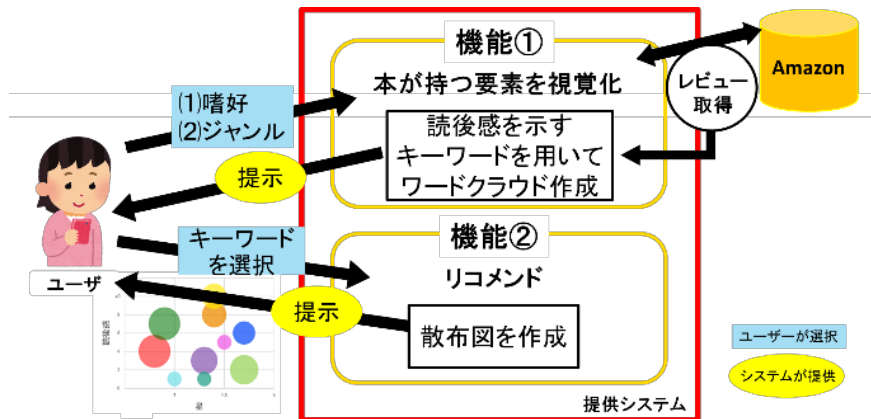


図1 システム概要

ここでは、ユーザが選択したジャンルの本 10 冊を対象に、嗜好・読後感を点数化し推奨するシステムを構築した。

【5. システム概要】

システムの概要を図1に示す。

(1) ユーザの嗜好の定義方法

10 ジャンル各 10 件のレビューから作成した本が持つ要素<感性的特徴:陰/陽><構成:遅/速・長/短>から選択<sup>[10]</sup>

(2) 読みたいジャンル

恋愛/SF/サスペンス/ミステリー/ファンタジー/ホラー/ライトノベル/歴史/時代/短編 (10 ジャンル)

機能①：本が持つ要素を視覚化

ユーザが選択したジャンルのトップ 10 の本のトップレビュー 20 件から、読後感を示すキーワードを品詞に注目して抽出し、ワードクラウド\*を用いて可視化する。

\*Excel のアドイン[E2D3]利用

機能②：リコメンド機能

ユーザが選択した読後感を示すキーワードとユーザの嗜好、本の評価を用いてお薦めの本を、以下のルールに従い散布図の形式に可視化して提示する。

- ◆X 軸: Amazon の評価(3.5~5.0)
- ◆Y 軸: 読後感(0~100%)
- ユーザが選択した読後感の出現率
- ◆サイズ: ユーザの嗜好(0~100%)
- ユーザの嗜好=選択した嗜好に関連するキーワードの出現率

【6. 効果検証】

システムの有効性を検証するため、プロトタイプシステムを作成し、読書習慣がない 10 人を対象に Amazon と提案システムを比較(表 2)してもらった。効果検証の結果、システムの有効性は高いことが確認された。しかし、選択する読後感によっては散布図の配置がばらけず、固まってしまうため、改善が必要であることも明らかになった。

〔表 2 効果検証の結果(5 段階評価)〕

	容易度	読みたい度
Amazon	2.8	3.1
提案システム	4.5	4.3

【7. 結論】

個人の嗜好と読後感を考慮し、散布図により可視化・推奨することで、読書習慣がない人でも容易に本を探すことができるので利用者に読書を促すことができると考えられる。

【8. 今後の課題】

今後の課題としては、効果検証で明らかになった改善点を改善する。そのために、取得するレビュー数を増やし、読後感の出現回数の平均をあげることで様々な個人の嗜好に対応していく予定である。

【参考文献及び参考 URL】

[1] Wikipedia, 活字離れ, <https://ja.wikipedia.org/wiki/活字離れ>  
 [2] 藤原和博, 『本を読む人だけが手にするもの』, 日本実業出版社, 2015  
 [3] クローズアップ現代 (2014. 12. 10), NHK, 広がる“読書ゼロ”～日本人に何が～  
 [4] Amazon, <https://www.amazon.co.jp>  
 [5] 読書ログ, <http://www.dokusho-log.com/t/>  
 [6] ブクログ, <http://booklog.jp>  
 [7] 読書メーター, <https://bookmeter.com/>  
 [8] 株式会社クロス・マーケティング「読書に関するアンケート(2017 年版), <https://www.cross-m.co.jp/news/release/20171024.html>  
 [9] ぐるりみち, <https://blog.gururimichi.com/entry/2016/03/02/203125>  
 [10] 増田純太, 杉本徹, 小説推奨システムの構築に向けた検索表現と書評の分析, FIT2012 予稿集(第 2 分冊), p. 189-190, 2012